

はじめに

文化 (Culture) という言葉が意味するように、我々の仕事は、有形無形の文化遺産の歴史的解明のための日々たゆまない耕作 (Tillage) であるといえよう。

当研究所が曾って課せられた分野としては、近畿地方を中心とする仏教文化の研究と平城宮跡の発掘調査であったが、数年来のすさまじい社会開発は、我々が上記の分野のみに止ることを許さなくなった。建造物における民家の緊急調査、飛鳥・藤原宮跡をはじめとする史跡、埋蔵文化財包蔵地の発掘調査など全国的規模において我々の参加を要請している。もちろん我々の力は人的にもそれらの要請に十分に答えられる程強力ではない。少い力で新しい技術の開発などによりより有効に成果をあげるよう努力しているが、我々が恒に痛感していることは、文化遺産を護るということは国民の理解なしにはなし得ないということである。

1969年度の当研究所の年報を発行するに当り、この小冊子が理解の一助となることを願いつつ、更に困難な仕事に立向う心を新たにすると共に、当研究所の事業に対する理解と協力を広く御願ひする次第である。

1970年11月

奈良国立文化財研究所長

松 下 隆 章